

告示	番号	14	慢性消化器疾患
	疾病名	急性肝不全（昏睡型）	

## 急性肝不全（昏睡型）

きゅうせいかんふぜん（こんすいがた）

### 概念・定義

肝細胞の急速な壊死あるいは代謝機能の障害により肝機能が高度に低下した状態であり、重篤化とともに凝固障害や意識障害をきたす。本邦では厚生労働科学研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班（持田班）の診断基準が用いられている。すなわち急性肝不全を

- ・正常肝ないし肝機能が正常と考えられる肝に
- ・肝障害が生じ初発症状出現から8週以内に
- ・高度の肝機能障害に基づいてプロトロンビン時間が40%以下ないしはINR値1.5以上を示すもの

と定義している。このうち肝性昏睡II度以上の肝性脳症を呈するものが「昏睡型」である。

しかし小児、ことに乳児の肝性脳症は観察によって判定することが容易でない。近年の欧米の小児のガイドラインでは予後を解析し、INR値2.0以上であれば意識状態によらず昏睡型と同等として扱っている。

### 症状

黄疸、活気不良、食欲低下、発熱などを契機に血液検査を受け、高度の肝逸脱酵素上昇をみて凝固異常を精査され診断される例が多い。初期にはさほど活気や食欲が低下しない例もあり、尿色が濃い、便色が白っぽいなどの徴候にも注意を払う。

理学所見では初期に肝腫大をみる例が多く、球結膜の黄染、右季肋部の叩打痛などに注意を払う。顕性の出血や点状出血に必ずしも遭遇しないが、採血部位の止血困難や血腫は手がかりになることがある。

進行とともに腫大していた肝は萎縮し、腹水がみられるようになる。意識障害は乳児で「あやしても笑わない」「母親と視線が合わない」年長児で「いつもよりおとなしい」「見当識障害がある」などで気付かれやすい。

### 治療

詳細は参考文献を参照されたい。

1. ビタミンK
2. ステロイド
3. 新鮮凍結血漿
4. 浸透圧利尿薬
5. 抗ウイルス療法
6. 抗凝固療法
7. 高アンモニア対策

8. 肝不全用アミノ酸製剤
9. 血液浄化療法（血漿交換および持続血液濾過透析）
10. 肝移植
11. その他

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/12\\_8\\_15.html](http://www.shouman.jp/details/12_8_15.html)